

文化情報学研究科

文化情報学専攻



文化情報学研究科とは

現代社会は、目覚ましいデータサイエンス技術の発展により、物質的な豊かさを享受してきました。しかしながら、真に豊かな社会を築いていくためには、データサイエンスの手法ばかりではなく、人間と人間の営みそのものに向けられることが重要になりました。このような現代社会の要請を受けて、文化情報学研究科では、多様な専門知識と技術を持つ教員と学生が集い、文化にデータサイエンスの光をあてるような教育研究を行っています。

人々の営みである文化を、単に直感や経験則によってではなく、データサイエンス技術を用いて分析・解析します。これにより、新しい文化理解の方法論を構築し、文化のより良い伝承と、時代の要請に応える文化の創出に、データサイエンス的な見地から事実を探っていきます。

文化情報学専攻

文化資源学 コース

文化資源が持っている断片的で大量で多彩な情報を、実資料からできるだけ忠実に網羅的に客観的に取得します。それらの情報を、デジタル化や数理的手法、データサイエンスの手法などによって関連性を確認しながら総合化します。特に、従来、美術史学・文学・文献学・文学・人類学・歴史考古学などにおいて別々に取り扱われていた文化資源を、一体のものとして相互の関係を前提としながら分析します。

言語データ科学 コース

データサイエンスや計算科学の方法論を取り入れ、従来の研究では十分に取扱うことのできなかった言語現象の解明に取り組み、言語研究の新領域及び複合領域を開拓します。特に、大量の言語データを処理することにより、言語生態の包括的な調査において言語研究の新規性・先端性を見出します。

行動データ科学 コース

人間の行動を文化研究の対象として陽に設定し、計量社会学、認知心理学をはじめとする行動学の成果と方法を文化研究に応用します。文化を人間の選択する反復的行動様式と定義し、定量的なデータに基づいて客観的に記述した上で、なぜ特定の行動様式が繁殖・持続するのかを説明し、それを踏まえて新たな行動様式を予測・デザインします。

データ科学基盤 コース

データサイエンス研究の最前線において、情報の多様化・複雑化に伴い、従来の学問分野単独での取り組みの限界を踏まえ、数理・情報・統計の枠組み・方法論の壁を越えて、文化を対象として、それぞれの分野が蓄積してきた知見を基に新たな視点に基づくデータサイエンスの方法論を構築します。

文化資源学

文化資源が持っている多彩な情報の関連性を統合化する。

言語データ科学

言語現象の解明に取り組み、言語研究の新領域を開拓する。

行動データ科学

人間の行動を説明し、新たな行動様式を予測・デザインする。

データ科学基盤

数理・情報・統計の枠組みを越えて、新たな方法論を構築する。



アドミッション・ポリシー



詳細は Web へ

神学研究科

文学研究科

社会学研究科

法学研究科

経済学研究科

商学研究科

総合政策科学研究科

文化情報学研究科

理工学研究科

生命医科学研究科

スポーツ健康科学研究科

心理学研究科

グローバル・スタディズ研究科

脳科学研究科

司法研究科
(法科大学院)

ビジネス研究科
(ビジネススクール)

福田 智子 教授

- ①日本古典文学の伝本と表現に関する研究
- ②和歌や物語などの仮名文学作品を対象に、諸本間の本文異同や作品間の類似表現を具体的に把握し、文学的意味づけを行うという実証的な文学研究を、コンピュータを用いて行う。
- ③①共著『好忠百首全釈』風間書房, 2018 ②共著『順百首全釈』風間書房, 2013 ③共著『患慶百首全釈』風間書房, 2008 ④『平安中期私家集論—歌人・伝本・表現—』勉誠出版, 2007

波多野 賢治 教授

- ①ビッグデータ管理とその利活用に貢献する技術開発に関する研究
- ②ビッグデータ管理を効果的・効率的に行うための技術開発を行う。
- ③編著『テキストデータマネジメント』岩波書店, 2022

星 英仁 准教授

- ①言語理論(統語論)
- ②自然言語の統語現象に関する記述的・理論的・実験的研究
- ③On Japanese Indirect Passives, Japanese/Korean Linguistics, 2013, 20, 347-362.

飯尾 尊優 准教授

- ①人間とロボットの社会的相互作用
- ②人工的な存在であるロボットが人間の認知や行動に与える影響を理解、その知見を活用して、人間社会の課題解決に資するロボットシステムの研究開発に取り組む。
- ③Human-like guide robot that proactively explains exhibits, Int. J. Soc. Robotics, 2020, 12(2), 549-566.

伊藤 紀子 准教授

- ①言語資源の構築と利活用に関する研究
- ②コーパス等の言語資源の構築とその利活用を通して様々な社会課題の解決に挑む
- ③A computational model of language in context and its application to Japanese text understanding, Systemic functional perspectives of Japanese: descriptions and applications, 2013

阪田 真己子 教授

- ①メディアとしての身体
- ②コミュニケーション・芸能・パフォーマンスを対象として、メディアとしての身体の機能を文理融合的アプローチによって解明
- ③共著『AI時代の教師・授業・生きる力:これからの「教育」を探る』ミネルヴァ書房, 2020

佐野 明子 准教授

- ①アニメーション・映画の領域横断的研究
- ②アニメーション・映画のメディアミックス研究、観客論、計量分析。東アジアの戦時期メディア研究。
- ③①共編『戦争と日本アニメ』『桃太郎 海の神兵』とは何だったのか? 青弓社, 2022 ②共著『運動としての大衆文化—協働・ファン・文化工作』水声社, 2021 ③共著『日本大衆文化史』KADOKAWA, 2020

沈 力 教授

- ①言語類型論から見た「語」の本質
- ②自然言語の形態素形成の戦略から形成しないしく形成の仕組みが予想できるという、いわば語の内的な性質(普遍的仕組みと多様な戦略)を解明することを目的とする。
- ③①共著 Resultative Constructions in Japanese from a Typological Perspective, in Handbook of Japanese Contrastive Linguistics, 2018, 193-225. ②Aspect Agreement and Light Verb in Chinese: A Comparison with Japanese, Journal of East Asian Linguistics, 2004, 13(2), 141-179.

下嶋 篤 教授

- ①図表現の意味特性と認知機能
- ②図表現が情報を伝える仕方が言語表現とどう違うのか、また、その特性が図表現を見る人の理解や思考にどう影響するかを、数理論理学と認知心理学を基礎に研究する
- ③Semantic Properties of Diagrams and Their Cognitive Potentials, CSLI Publications, 2015

杉尾 武志 教授

- ①図的表現の認知メカニズムの解明
- ②図やグラフといった情報の視覚的な表現について、人間がどのように理解し、判断や意思決定を行っているのかを心理実験や視線計測により明らかにすることを目指す。
- ③The Role of Top-Down Knowledge in Spatial Cueing Using Hierarchical Diagrams, In: Diagrammatic Representation and Inference. Diagrams, 2018, 10871, 500-508.

田口 哲也 教授

- ①比較文化
- ②日本の文化と世界のいろんな地方の文化との比較を通して、人類として共通している要素は何か、日本文化の特殊性は何かを研究しています。加えて、日本の過去の文化と現在の文化の比較を行い、近代の日本の私たちの意識はどのように形成されたかも研究しています。
- ③①共訳『ケネス・レクスロス詩集』思潮社, 2017 ②『ケネス・レクスロス中心の現代対抗文化』国文社, 2015

津村 宏臣 准教授

- ①文化遺産の社会資源化に関する研究
- ②国内/国外を問わず、多様に存在する文化資源について、活用のフェーズで遺産(Heritage)として社会資源化を産官学民連携により研究・実践する。
- ③分担執筆「コトバと暮らしのミームを探る—変化する「環」を捕まえる—」『シークワサーの知恵』京都大学出版会, 2016

宿久 洋 教授

- ①多変量データ解析、計算機統計学
- ②大規模複雑なデータの解析法についての理論および方法論研究
- ③①Estimation and visualization of heterogeneous treatment effects for multiple outcomes, Statistics in Medicine, 2022 ②F-measure maximizing logistic regression, Communications in Statistics - Simulation and Computation, 2022, 1-11.

山内 信幸 教授

- ①日英語の修飾語研究・比較文化研究(中間言語研究・日中対照言語研究)
- ②日英語の形容詞・副詞の修飾語の機能と構造を解明する。言語習得における言語干渉や中間言語・日中両言語の翻訳に見られる諸相を比較する。
- ③A Note on the Influence of Topic Prominence in Japanese on Japanese Beginner-Level EFL Learners' Interlanguage: An Empirical Study, Facing Diversity in Child Foreign Language Education, 2021, 291-311.

鄭 躍軍 教授

- ①人間行動の測定と解析、社会現象の計量的分析
- ②価値観・環境意識・環境配慮行動の実証的研究、社会調査・計量社会科学・統計科学の方法論的研究
- ③①『統計調査法—社会科学のためのデータサイエンス』共立出版, 2022 ②共著『スタンダード 社会科学系の統計学』培風館, 2022 ③共著『社会調査データ解析』共立出版, 2011

河瀬 彰宏 准教授

- ①文化解析、デジタル・ヒューマニティーズ
- ②人文社会科学研究が射程としてきた様々な文化現象に対して、計量分析を実施し、文化の価値、伝統、社会構造、個人と共同体に関する洞察を得る
- ③共編『量から質に迫る:人間の複雑な感性にいか「計る」か』新曜社, 2014

中西 義典 准教授

- ①統計科学・統計物理学
- ②データサイエンスの限界を解明しそれを乗り越えるための研究。データが科学を駆動しているという状態を明らかにし、それを持続可能とするための研究。
- ③Data-driven diagnosis for compressed sensing with cross validation, Physical Review E, 2018, 98, 052120-1-052120-6.

中安 真理 准教授

- ①仏教美術史、東アジアの古代音楽史、音楽図像学
- ②文献と美術作品を対象とした東アジアの仏教美術史・古代音楽史の研究、美術作品などに表現された音楽図像の研究
- ③『篋篋の研究—東アジアの寺院荘厳と絃楽器』思文閣出版, 2016

Gaetan RAPPO 准教授

- ①日本中世史、宗教史学、デジタル・ヒストリー
- ②デジタルツールに基づく宗教文書(真言、天台、神道など)の分析を通じて、中世日本の思想と世界観を解明する。
- ③①共著「文観房弘真の織りなしたテキストの地平」『ことば・ほとけ・図像の交響: 法会・儀礼とアーカイヴ』勉誠出版, 2022 ②Data Mining in the Works of the Shingon Monk Monkan (1278-1357), Journal of the Japanese Association for Digital Humanities, 2018, 3(1), 114-149.

TOPICS 充実した教育環境・設備

コンピュータなどの情報処理機器を配備した研究科専用共同研究室や、数理解析、文化解析、感性解析の3つの実験室を備えています。他にも古文書の紙、墨、絵具、浮世絵の顔料、考古遺物などの組成を分析するための元素組成分析装置、視線計測装置や電子顕微鏡、感性を解析するための脳電位測定装置などの分析装置や、浮世絵、和歌集、巻物などの貴重な標本・資料を有し、教育研究に活用しています。



視線計測装置



長沢芦雪『一笑図』